

平成23年11月15日に市長室で行われた市長対談の様子



毎年全道で一番になる子がいるのは底辺が広いからですね。文化祭や、書き初め会で市内一同に介する催し物をそのまま残しておいていただきたいと思います。子どもをやる気にさせるためにも、親に興味を持たせる意味でも大切だと思います。また、文化芸術審議会委員を10年やって、最初は本当に大変でしたが、なんとかアイデアを出し、助成金などの内容も整理しながら、将来につながる色んなイベントを継続していきたいと思っています。

河原さん

市長

ママになったばかりの人が一番、私もそうなんです。子どもに何か良いものをやらせるっていうの、にすごい興味があるんじゃないかなと思うので、ママ向けの何かできたらいいなって思います。自分自身の

黒岩さん

活動については美術の受け皿が日本自体そんなに広くないので、一人で海外に行くとか、道外に行くとかが今後は増えていくんだろーんと思うんです。そんな中でも後進の育成は、今もやっているんですが、幼稚園とか小学校に行って体験学習で能動的だったり創造的な姿勢を植えつけることだけはやっていきたいと思っています。その面で今、美術館ができるというお話があるので、それには非常に期待をしています。そこで必要だなと思ってるのは施設ももちろんですが、専門職の学芸員の存在が大切だと思います。美術って子どもや大人とのコミュニケーションに非常に時間がかかるので、なるべく長い期間取り組める人がいる施設であって欲しいなと思います。



藤沢さん

市長

「青少年ミュージックキャンプ」の様子



活動としては、私も「継続は力なり」を忘れず諦めず突き進みたいと思います。そして、図書館や博物館に行きたいと思わせるものや、行ったら色んなものが楽しめる総合的な、苦小牧ならではの何かができたら最高ですね。後進の育成としては、私は文化を通して子ども達が変われば、まちも変わると思いますが、音楽の生徒指導をしているのですが、今すぐ変わるのではなく、今の子ども達が将来どうなるのかっていうところがすごく大事だと思います。本当に協力できる人が協力して少しずつでも進んでいければいいなって思います。そういう種を少しずつまいて、「花を咲かせるのはあの子達」という準備を私ができたらいいなと思います。最後に、青少年ミュージックキャンプも前回参加させてもらって、もし自分が子どもの頃にあつたら、人生が変わったかもしれないなって思いました。これも継続することが重要だと思います。



黒岩さん

この対談を通して皆さんの意見を市民の方が知ること文化について考えるきっかけになればと思います。また、それぞれの分野でみなさんの活躍を期待しています。そして、誰もが気軽に文化に触れることができるまち・とまこまいをつくるため、ともに頑張っていきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしくお祈りします。



市長

文化のまちを発展させるためには、子ども世代への育成が非常に大切であることが解りました。今すぐではなく、10年後、20年後を考えると、本物に触れる機会や、場所、発表する機会を充実させることが文化のまちづくりには大切だと改めて感じました。

どっちかという僕は皆さんとは違って一人でコツコツと物事をやるということからスタートして、こもって何時間でもずっと字を書いています。書を書いていて前に解らなかつたものが、理解できるようになることが喜びです。まず書を理解する、上手くなる、自分で手こたえのあるものを書くことで、いつもずっと一人で不満も無く何年もきたんですね。とにかく好きなので書く分には苦労していません。発表となると、苦小牧ではアイビー・プラザで1週間ほど書展を開催しています。毎年千人以上の方に来ていただいているんです。また、書道甲子園のパフォーマンス書道っていうのが出来ましたよね。僕も新年会とか記念に

河原さん

の整備が大変なところで。琴の弦を張る人や、琴を弾く時の爪の輪を作る人が高齢になってしまつて、後継者もいないので琴が弾けなくなるんじゃないかと危惧しています。やりがいは、シンセサイザーの方とオリジナル曲のイントロを作るだけでも何時間もかかったのですが、お互いに納得できるものを作り上げたときや、その曲で観客の皆さんを別世界にもっていきけるような演奏ができて、感動を共有できたときにも喜びがありますね。



伊藤さん

カルチャーパーク・アートフェスティバルのような、気軽に足を運べて色んなジャンルのアーティストが関わる仕組みを育て、同時に会場となつていく文化公園を中心とした図書館、博物館、サンガーデンや総合体育館の様々な施設を点ではなく面として捉えていくことが、重要になってくると感じました。

市長

書いたりして、以前シンガポールで屋外で揮毫しましたが、こういうのは今の時代に合っていないなと思います。

河原さん

きっかけは、小学3年生の時に、交通安全ポスターコンクールで大賞を取つたんです。転校したときにある同級生が、キミってあの賞とつた子、みたいな話になつて、それからクラスの雰囲気ガラッと変わつたんです。絵に助けられたって感じて、それでどんだんのめり込んでいって、その頃には、美術で身を立てたいと思つていました。苦小牧は、師匠の工房から出て一人で苦小牧で活動する時、作品を持って営業してなるとか仕事をもちろるが大変です。芸術で身を立てるのは本当に大変です。でも今は徐々に仕事が入つてきて、数年前から自分の彫刻の発表を本格的に始めることになりました。芸術は本当に大変ですが、いまだに子供の夢を続けられてる訳なんです。

藤沢さん

テーマ

これからの苦小牧の文化について

それぞれ活動状況が違うのですけれども、苦小牧市で皆さんの活動が更に活発になるために、どのような取り組み、風土があればいいかと考えるか、これからの苦小牧の文化についてお聞かせください。

市長



第九コンサートにここ数年間出演させていたいただいて、毎年同じでは面白くないということ、前回はオペラ、今回はバレエとのコラボを考えています。これからの苦小牧ということになると、ずいぶんピアノのレベルが上がって、ピアノを習っている方も凄く多いと思うんです。私たちが、文化不毛とか苦小牧は東西に分かれていて、か、マイナスイメージの言葉を言わない方がこれからのためなのかなと思います。そういう意味では、実は苦小牧って凄いいんだよと少しずつPRしていけば良いと思います。青少年ミュージックキャンプで学んだ小中学生の生徒たちが、苦小牧に帰ってきて新人音楽祭で演奏できたら素敵ですよ。

畠山さん

日本の伝統楽器なので、以前サミットでジューピターを演奏したんですけれど、海外からのお客さんに日本の伝統楽器というのはこんなのがあって、こういう曲も出来る

伊藤さん

自

身の活動は書を極めたいということになり

なんですよとアピールしたいんですよ。演奏で、もてなすサービスタグローバルを繋げた何かをできたらと思います。そうすることで、何かお琴で国際交流のお役に立てることがあればと思います。また、イベントのPRが足りないのかなと感じました。もっとメディアに載せたら、集客につながるのになと思いますね。

伊藤さん

命指導しています。やっぱり子どもの時に取り組んでいることが大切なんです。あと、苦小牧ということになると、どの分野でも底辺を広げないといけないって生まれなくて、だから、もっと底辺を広げてその中から能力の高い子を落とさずひろいあげて導いてあげる。書道界でもなんでも、芸術でレベルを上げていくためには、それが一番早いのではないかなと思います。書でも、

河原さん



「苦小牧新人音楽祭」の様子

